

SIP第3期 包摂的コミュニティプラットフォームの構築

令和8年3月18日

内閣府 プログラムディレクター

久野 譜也

筑波大学大学院人間総合科学学術院 教授



包摂的コミュニティプラットフォーム:新たなビジョンの方向性



Society 5.0における課題としての貢献 ▶ 社会全体(地域や職域)及び個人のWBの最大化

包摂的な
共生社会へ

- プラットフォームとしての機能発揮のためにサブ課題連携を推進
- コミュニティは「人」が鍵となるため人材育成システムを強化

人口減・高齢化に伴うコミュニティ再生

孤立・孤独者を減じる
共生社会への処方箋

子ども・子育て女性・若者・高齢者
(特に80歳以上)・障がい者の社会
とのつながり喪失を予防するコミュ
ニティ再生サービスの開発

女性活躍による少子化対策、中小企業
の人手不足・生産性の向上

アンコンシャスバイアスの
解消によるWB経営の推進

晩婚化・晩産化を背景に、男性の
寛容性、女性の自律性を高めること
により企業・個々のWBを最大化
するサービスを開発

虚弱・認知機能低下者増による
社会課題の解決

課題を減じることで高齢者と
現役世代双方のWB最大化

100歳時代における生涯通じての
WB最大化サービスの開発。
結果、サンドイッチジェネレーションや
ビジネスケアラーを減じる。
また、社会保障制度の持続へも貢献

地域未来戦略リスクリングスタートアップ創出

上記サービスをサステナブルに支える運営主体と地域や職域における人材育成法の開発

従来の自治体との協働に加えて地域金融等との連携を強め、全国の雇用者数の約7割を占める中小企業も導入可能な各サービスを構築する。そのために、中間法人やスタートアップ戦略の具体化を課題全体で取り組む。リスクリングもDXを活用してハブ的教育拠点を整備し、全国でどこでも均質な人材育成が可能なモデルを完成させる。この仕組みは、他のSIP課題でも活用できることを想定。

開発される社会技術

市街地コミュニティ再生

- ① 自治体・民間が使用できる孤独・孤立者を減じるコミュニティ再生策の実施効率化と効果のエビデンス&エピソードの獲得
- ② 地域コミュニティ再生ガイドラインのα版完成
- ③ 地域での活躍人材の育成法の完成

デジタル同居

- ① 虚弱で自宅で無為に時間を過ごしている高齢者の意識変容技術の完成
- ② 虚弱度合の身体的改善と外出意欲を喚起する社会技術の完成
- ③ 有償導入企業・自治体をそれぞれ2以上でのPoCの実施
- ④ サンドイッチジェネレーション減少PJが開始される

移動支援

- ① 多摩市了解の上での有償PoCを実施し、成果と課題が見える化される
- ② A1及び多摩市と連携して行きたいとなる環境の整備計画を策定し、第1段階整備完了



住民・社員
自治体・企業

WB最大化



子育て女性支援

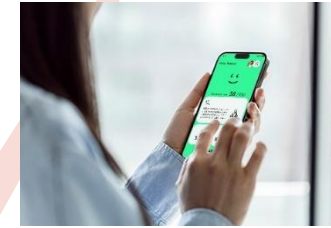
- ① 無関心層を動かす社会技術の築堤に成功
- ② 自治体・企業の導入数をR7年度の2倍以上を達成
- ③ 運営主体の具体化が完了(株主構成など)
- ④ 複数企業でサンドイッチジェネレーション減少PJが開始される(再掲)

MOMUP
PARK



働く女性支援

- ① 中小企業向けWB経営支援サービスの主要AIやアプリのα版の開発終了
- ② 有償PoCを3社以上で実施し、成果と課題が見える化される



Wellpathy-AIによる伴走アプリ

女性従業員向けの女性特有の健康課題の解決につながる

行動変容を促す取り組み



選択して
使用

WB経営の
評価指標



PR-WG

わたしたちの未来会議 @玉川学園・中高生

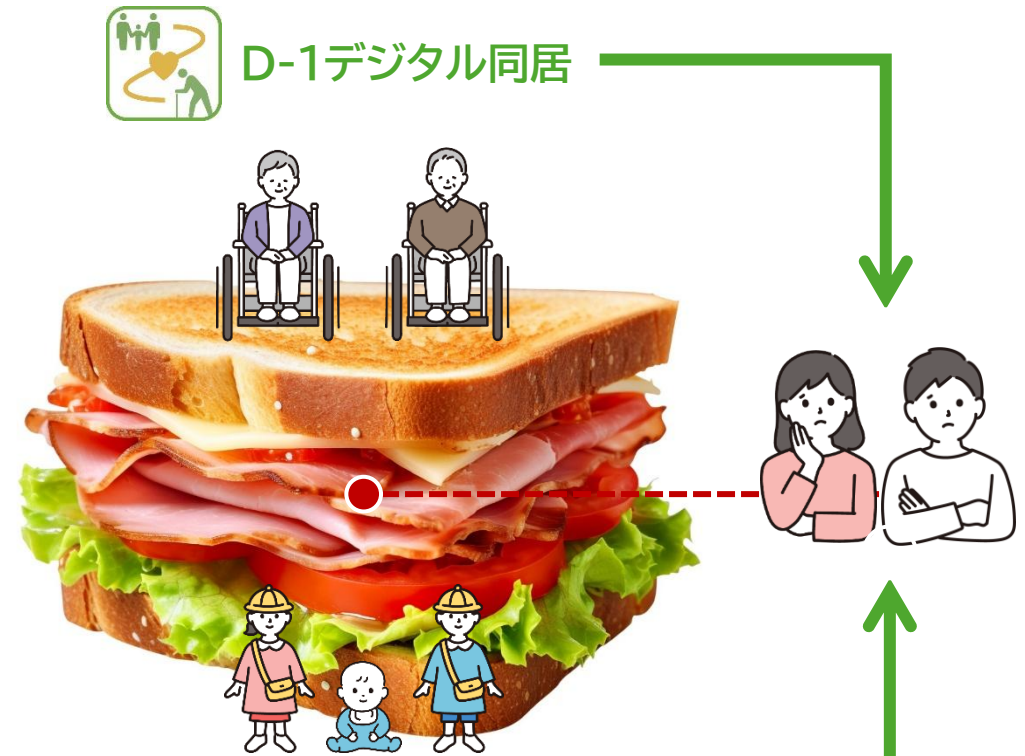
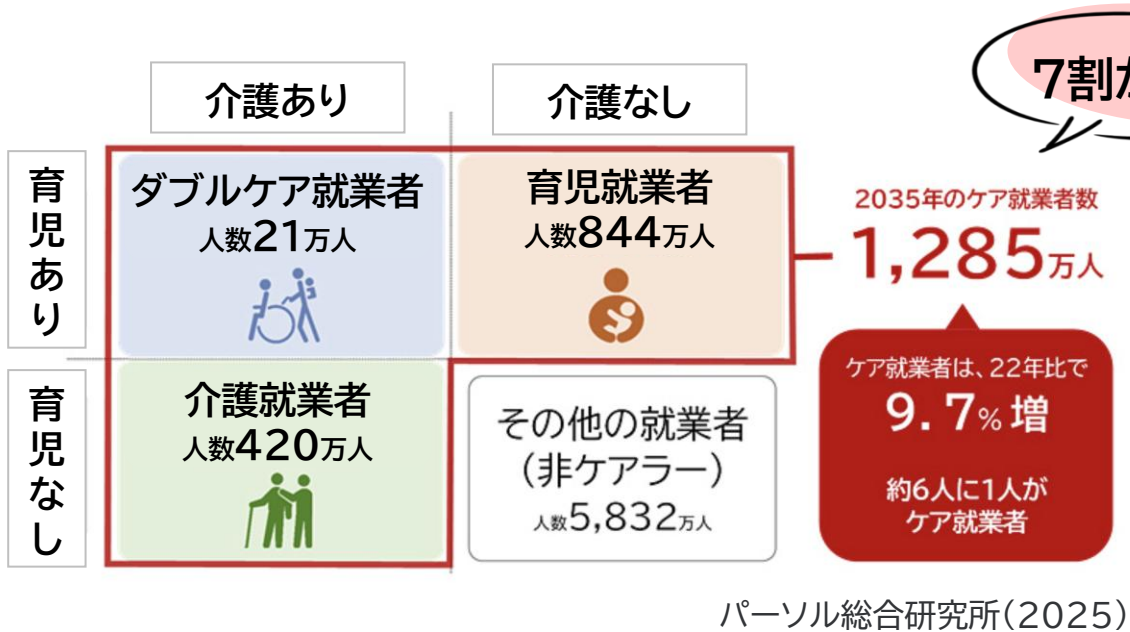
- ① 学生をインフルエンサーとして養成
- ② Z世代から社会変革の流れをつくる社会技術の完成

包摂的プラットフォーム

R8年度新たなビジョン重点ポイント

サンドイッチジェネレーション解決に向けたテーマ連携の推進

晩婚化・晩産化を背景に、主に40代で育児と親の介護を同時に行う女性(サンドイッチジェネレーション)がさらに増加。BC連携(子育て女性、働く女性)とD-1(デジタル同居)で社会実装における連携を具体化して対応を強化。



個人的理由(介護・看護を理由)で離職した人は
約 **7.3万人** うち女性は約 5.6万人(約**77%**)
(厚生労働省「雇用動向調査」2023)



世の中ちょっと良くする部

これからの未来を担う「ワカモノ」たちが、
自分たちの未来を考え、
アイデアを発信・アクションし、
世の中にムーブメントを巻き起こす。



わたしたちの未来会議 @玉川学園



ワカモノが主体的に社会問題の解決に取り組む新プロジェクト。
女性や高齢者の問題にフォーカスし、
フィールド実習を通して学び・実践し、
部活動として取り組む。

#Go Long プロジェクト(TikTok¬e)



社会課題は気づくだけでは変わらない。
「#Go Long もっと遠くを狙え」
を合言葉に、自分たちが気づいたこと、
考えたことを実際に社会に投げかけ、
届けることに挑戦。
SNS起点でのムーブメントに繋げる
ことを狙う。

昨年以降のPR実績

2025年2月 包摂全体シンポジウム
ハイブリッド開催、参加総数459名。
テーマ関係者を除いた来場は、民間企業、自治体、公的機関からの参加が多数。



2025年10月 記者会見
第33回SWC首長研究会内の時間で武蔵野銀行の長堀頭取、玉川学園の小原理事長等と記者会見を実施。また玉川学園生徒から首長への提言、トークセッションを開催。メディア参加社数は14社。



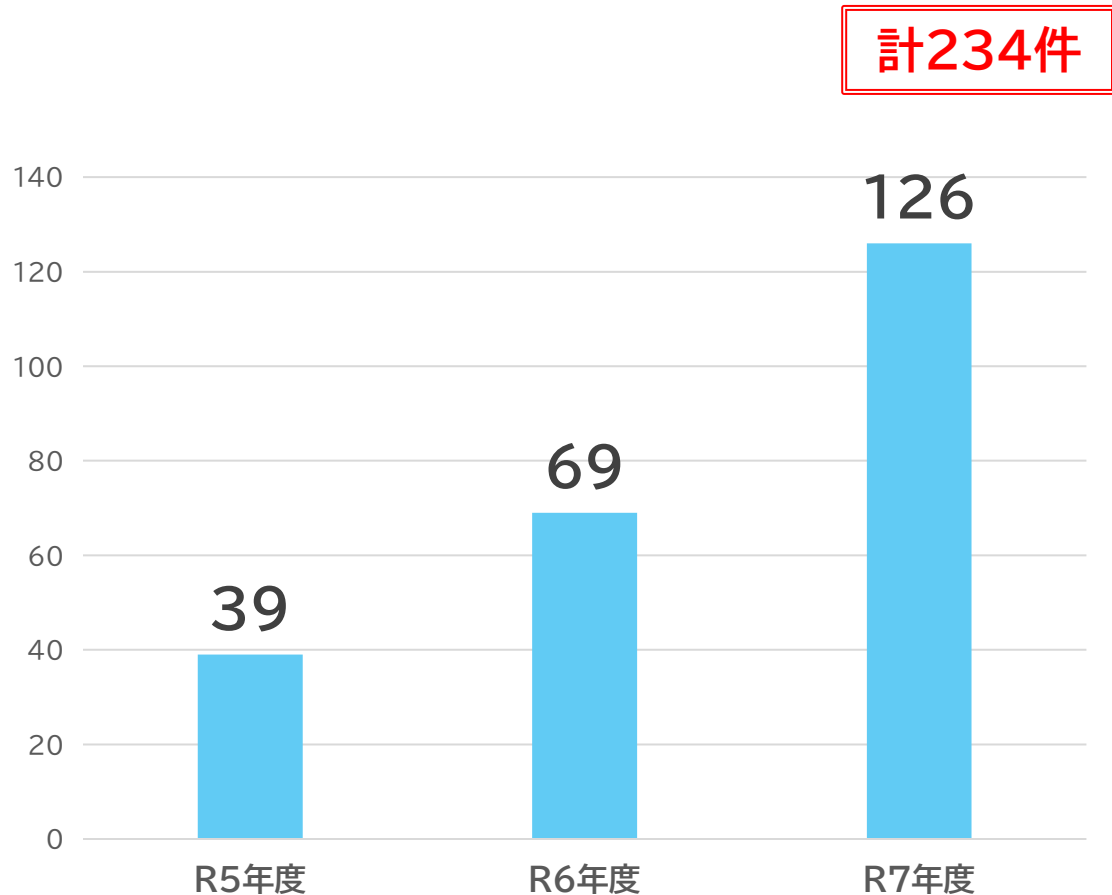
2025年10月 日本公衆衛生学会
ブース出展及びランチョンセミナーを実施。ランチョンセミナーは500名近くが参加。埼玉県戸田市の菅原市長、玉川学園生徒等が登壇。



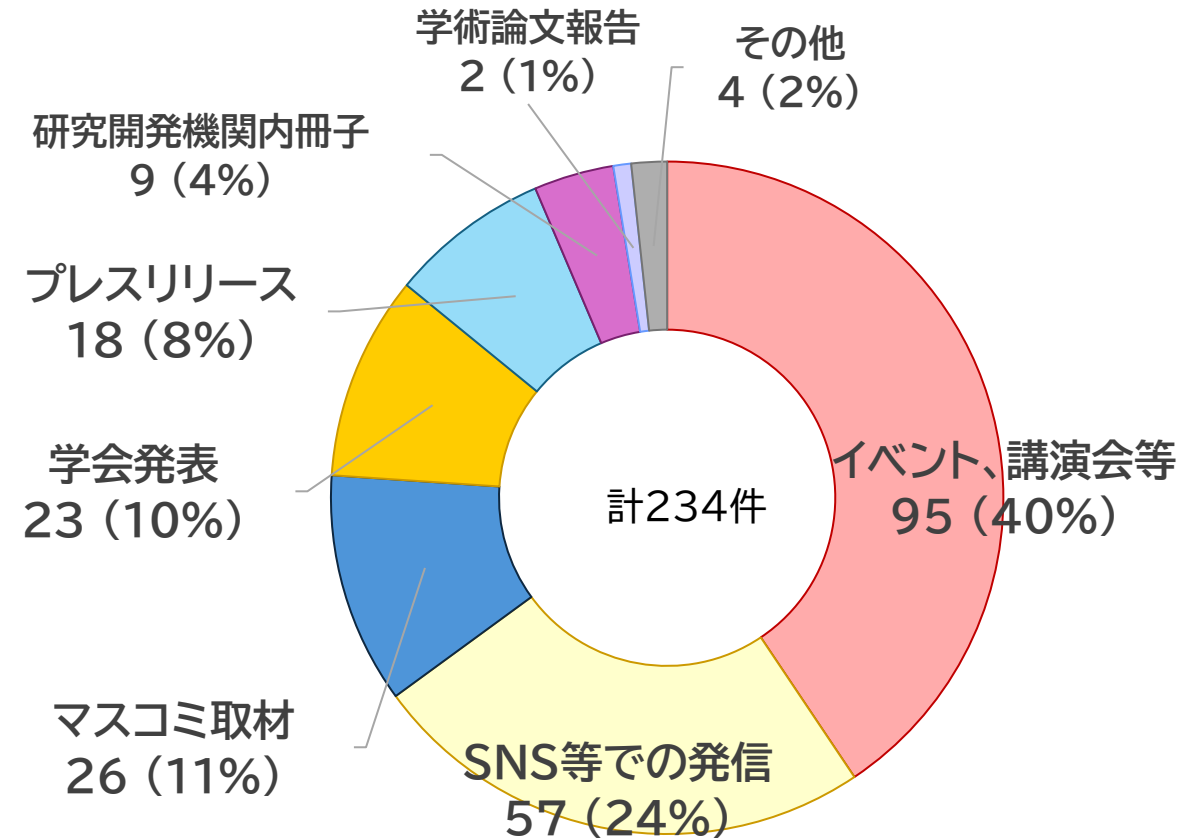
これまでの広報活動件数（R8 1月現在）

イベント、講演会を中心に、これまで計234件の広報活動を実施

年度別推移



広報種別内訳



* R7年度は2025/12/10までの集計値